

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100926		
法人名	株式会社幸友会		
事業所名	グループホームしあわせ		
所在地	〒038-2705 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町南浮田町字金沢街道の沢55-9		
自己評価作成日	平成24年10月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成24年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットで小規模な点を生かし、利用者と職員が本当の家族のように、楽しい事も、つらい事も共に分かち合い、お互いを尊重しながらアットホームな環境の中生活しています。ホームのモットーである「笑顔がつくるしあわせ家族」を職員一同心に思い実践できるよう日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

比較的新しい住宅地の中に事業所があり、町内との関わりを地域住民と一緒に作り上げるように努力されている。
利用者との関係は地域性も考慮した関わりを持たれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“笑顔がつくるしあわせ家族”当ホームの理念は、職員一同が意見を出しあい決定したので全職員周知し共有しています。皆、この理念を大好きに思っています。	利用者との関わりにおいて、利用者や家族と相談して呼び方や対応について考え、理念に基づいた笑顔のある生活に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の総会に参加したり、町内の清掃活動にも進んで参加しています。又、当ホームの秋祭りの行事には町内の皆様を招待したりしながら、交流を図るよう努めています。	町内会に入り、地域との関わりを持つ機会を作っている。事業所の催しに町内の方を招いたり、利用者と一緒に町内の清掃活動に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して、地域の人に認知症について勉強会を行ったり、相談事がある時は対応できるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の日々の取り組みや、利用者状況等を話し合いサービス向上に活かしています。より良いサービスに取り組めるよう1年に1度、利用者及び家族にアンケートを実施し、その内容を運営推進会議で話し合う場を設けています。	事業所独自のアンケートを利用者や家族にお願いし、それを基に運営推進会議の場で意見を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1度運営推進会議に出席していたり、その際外部評価の評価報告、ホーム便り、利用者状況及び活動状況の報告を行っている。又、随時必要時には連絡をし協力関係を築いています。	運営推進会議に毎回参加して頂き、事業所の取り組みを理解して頂いている。又、随時介護保険や福祉制度など不明な点などについて連絡をする事で協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを作成し、職員一同周知しています。又、ミーティングで取り上げ、利用者を尊重し束縛等の行為をしない介護を目指しています。	マニュアルを活用し、直接身体への拘束だけでなく、利用者の行動を妨げない関わりを持つように話し合い、実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待がないよう、注意を払い、虐待防止の「マニュアル」を作成し職員一同周知しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用している入居者がいるので、必要性を職員が認知できています。また、この制度を活用した事で利用者本人が落ち着いて生活できている事から職員一同理解できています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明をきちんと行い、利用者、家族が不安のないようにし、疑問点等は傾聴し説明、理解、納得できるように行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも要望が聞けるよう、玄関に意見、要望ボックスを設定しています。また、苦情処理の窓口を設置しています。その他、アンケートを実施したりしながら、家族、利用者の意見を反映できるよう努めています。	事業所独自のアンケートを年3回実施し、家族用と利用者用を別々に行い、日々の業務に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員の意見や提案を聞く場を設けています。また個人的に話づらい時は、個々に聞く機会を設け、運営に反映できるように努めています。	夏場と冬場の利用者の生活時間の違いを踏まえて、職員の勤務時間を変更するなど、職員から出た意見を取り入れながら取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員の努力や勤務状態の把握に努めており、各自が向上心を持って働ける職場環境となっています。又、環境に対する改善点等いつでも整備できるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が交互に必要な応じた研修に参加し、日々のケアに役立てていけるよう、研修の確保に努め参加しています。職員も研修結果を報告書にまとめ、全職員が閲覧できる環境になっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム連絡会には、順番に職員を参加させ同事業者と交流が図れるよう支援しています。9月・10月と相互研修を行い、他GHの良い点を学んだり、当GHの改善点に気がつきができた今後のサービスの質の向上ができるよう、取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所するにあたり、きちんとしたアセスメントを行い本人及び家族のニーズを傾聴し、その実現に向けて努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に耳を傾け、不安を取り除き要望を受け入れられるよう努力しています。利用者本人がより良いサービスを受けることができるよう本人及び家族との関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行うと同時に利用者及び家族の話に傾聴し、その中から必要とする支援は何か、まだどんな支援をしていくか見極め、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活をしていくうえで、利用者さんより、教わる部分はたくさんあり、それを日々の生活に反映しお互いに助け合い生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で生活状況の変化を報告し、家族と共に共有し解決できるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理美容院には、本人の体調が許す限り外出しています。面会時間を定めていないので、いつでも家族・友人が来園できるよう努めています。	利用者と同じ地域の友人が来訪されたり、いつでも利用者が馴染みのある商店等で買い物できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者には、職員が中に入り、利用者同士が関わりあい助け合えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される場合、その後のサービス利用の開始に向けて、家族・ケアマネ等と連携を図り、支援できるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人が主体的に暮らすことができるよう、本人のニーズを把握し、思いや希望が引き出せるよう努めています。	利用者との日々の会話の中から感じた事を申し送りノートに随時記入し、職員間で話し合い共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやケアプランを活用し、情報収集に努めています。入所後も必要時は関係機関や他施設に情報提供をお願いし、なじみの暮らしがとぎれないよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活パターンや心身状態を職員が把握し、利用者が安心して快適に過ごせるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見や意向を聞き、関係職員が参加の上、カンファレンスを実施し、意見や気づきを反映させ、利用者がより良く暮らせるための介護計画を作成しています。	入居前の情報も得ながら介護計画を作成したり、関係職員や家族・利用者の意見を反映したりしながら取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況を個別に記録し、全職員が共有把握に努めています。 随時、実践結果を共に再アセスメントを行いながら、介護計画の見直しに取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診を支援したり、その時々状況に応じた柔軟なサービスを行うよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フォーマルのみならず、インフォーマルを活用し、利用者一人ひとりが安全で暮らしやすい場になるよう支援しています。又、運営推進会議等で地域の方々に呼びかけ、地域ぐるみで活動できるよう努力しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望・要望を常に聞き、かかりつけ医や医療機関を受診できるように支援しています。かかりつけ医と事業所との信頼関係を保ち、いつでも連携できる体制作りを心がけています。	往診やかかりつけ医への受診支援を行い、付添職員が家族から話を聞き主治医に報告し、主治医からの結果を家族にも直接報告する体制ができています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携を結び、利用者一人ひとりの体調の変化等、気づいた事や疑問に思った事を相談し、適切な処置が行えるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も定期的に面会に行き、早期退院に向け情報交換をしています。又、普段より地域連携室と密に連絡を取り合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で対応できる範囲を説明し、家族及びかかりつけ医と相談しながら方針の共有を図りつつ、早期にその利用者に応じた対応を行っています。	入居時の説明で看取りは行わない方針で説明をされているが、訪問看護との連携や夜間でも往診をしてもらうなど、早期に今後の対応について支援できるような体制を構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルが作成されており、全職員がそれを周知している。医療連携を図っている看護師より、適切な対応や指導をうけ実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災及び非常災害時対応マニュアルを作成しています。日中、夜間を想定しての避難訓練を実施しており、全職員がマニュアル周知徹底と実践力を身につけています。又、町内会の防災組織にも参加しており、地域との協力体制を整えています。	年2回の訓練を行い、町内会からの協力については参加要請を行い体制作りに努めている。又、災害時の食料備蓄や発電機の準備がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけています。また、利用者の生活ペースに合わせた対応と言動を否定せず、受容的態度で接するよう努めています。	トイレ誘導は何気ない声かけを行い、入浴は1対1で順番も考慮しながら利用者の気持ちを受容されている。又、呼び名も利用者が呼んでほしい呼び名で接する様に取り組みされている。	利用者への声かけは希望に応じた呼び名で対応し、家族的な理念に合致はされているが、利用者とは介護者としての距離感に注意し今後も取り組む事に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に選択できる声掛けを行い、思いや希望を開くよう心がけ、自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先を職員一同心がけ一人ひとりの希望にそって支援しています。また、出来ない場合は、その理由をきちんと話し、理解してもらうよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの個性や希望・要望を大切に、その人に合った身だしなみや、おしゃれが出来るよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたい物を聞きながら共同でメニューを作成しています。また、ホワイトボードにその日のメニューを書き入れる事により、食に対する楽しみがわいてくれればと思い、継続して行っています。	献立は利用者と相談して決めたり、近所の方から野菜を頂いた時は利用者にごしらせを手伝ってもらうなど、利用者ができる事への支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量及び水分量をチェック表に記録しています。また一人ひとりの状態や習慣に応じながら、個々にあったバランスのとれた食事を提供できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の力量に合わせて口腔ケアを行っています。又、食事前、おやつ前等こまめにうがいをするよう声掛け及び介助を行い、清潔保持と一緒に感染予防にも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの自尊心を傷つけない事を一番に考え支援しています。介助が必要な利用者は排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、常にトイレでの排泄ができるよう支援しています。	個別のチェック表を活用し、トイレでの排泄を支援している。臭いや清掃、トイレ利用後の確認もこまめに行い支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全職員、便秘の原因や及ぼす影響を理解しています。運動や食事の工夫、水分摂取の工夫を入れながら支援しています。又、週1度ヤクルト訪問をお願いしており希望者にはヤクルト購入しています。毎晩寝る前にヤクルト飲用する事で便秘の改善が見られるようになってきました。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴曜日や回数は決まっているが、一人ひとりの入浴習慣の把握をし、希望・要望に沿えるよう努めています。又、いつまでも入浴できる体制となっています。	週2回の入浴日の他に、随時入浴へも対応している。入浴剤を変えるなどし、気持ちよく入浴を楽しめるような配慮がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣を理解し、その時の状態に合わせて休息を入れたり、又、コミュニケーションを図りながら本人が安心してゆっくり眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員、利用者一人ひとりの薬の作用、用量の把握に努めています。又、変更時には用法や副作用を申し送りノートに記載し、全職員が周知徹底に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、毎日充実した生活を過ごすことができるよう支援しています。1年に数回アンケートを実施し、一人ひとりに合った支援や嗜好品を取り入れられるよう努力しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人ひとりの希望を聞き、全利用者一緒に外出したり、個別に外出したりその時々状況に合わせて支援しています。	希望に応じて郵便局やドラッグストア等、病院受診日以外は随時、出かけられるように支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じながら、買い物等に出かけた場合、本人にお金の支払いをさせお金の大切さを理解できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人が電話したり、手紙のやり取りなど、本人の心の安定につながる事なので、宛名を代筆したり、電話をつないであげる事は日々支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、その季節の食べ物を提供し季節を感じられるよう工夫しています。又、家庭的な雰囲気を保ち、落ち着いて生活できるよう支援しています。	自宅を感じられるように利用者から希望を聞いたり、季節を感じられる花や飾りを置くなどして、落ち着いたある共用空間作りに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファを置き、気がねなくつろいでテレビを見たり、利用者同士が仲良く語らいの場となるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらい、くつろいで過せるよう配慮しています。植物の好きな人は、居室に花を飾ったりしながらその人らしく生活できるよう支援しています。	馴染みの物を持ち込んで頂いている。利用者の中には仏壇を持ってきたり着物を持ってきたりと、馴染みの空間作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ等に手すりを設置し、安全に生活できるよう工夫しています。また、自分の居室やトイレの場所がわかるよう、飾り付けや目印をつけ、自立した生活が送れるよう支援しています。		